

沖縄のカーボンニュートラルとネイチャーポジティブ

CN・NP統合戦略の背景と目的

気候変動と生物多様性の危機は相互に関係し合っており、両者を一体で捉える統合的な対応が国際的に求められています。不適切な気候変動対策はかえって生物多様性を損ない、生態系の復元力を低下させる恐れがある一方、両者を統合的に対策すればリスク緩和を効率的に進めながらウェルビーイングにも貢献できます。当社が事業を展開する沖縄県は世界的な生物多様性のホットスポットであると同時に、開発により自然が失われてきたエリアでもあり、企業の意思決定が将来の地域の持続可能性に大きく影響します。

こうした認識のもと、当社は「カーボンニュートラル(CN)」と「ネイチャーポジティブ(NP)」を統合して推進しています。CN施策を「土地利用面積」「経済コスト」「CN効果」「NP効果」の観点から評価した結果、太陽光発電は削減効果と現実性で最も有力な一方、広い土地を要し生物多様性への配慮が必要であることが分かりました。そこで、太陽光を中心にCNを進めつつ、その過程で生じる自然へのネガティブインパクトを県内の生態系の保全・復元活動によって相殺し、沖縄における有効なCN・NPの両立を目指します。

2024年度カーボンニュートラル達成
温室効果ガス排出量を実質ゼロに！



地球にやさしい
通信環境を提供



環境価値の内容

Scope 1: 自然由来クレジット(森林・ブルーカーボンなど)

Scope 2: 沖縄県内の再生可能エネルギーから創出されたFIT非化石証書



CONTENTS

- 01 イントロダクション
- 06 価値創造ストーリー
- 08 トップメッセージ
- 13 事業戦略
- 20 技術・ネットワーク基盤
- 25 人的資本経営
- 34 財務基盤
- 37 OCT VISION 2030 | 中期経営計画
- 40 6X経営
 - 41 6X経営とは
 - 42 CX部会
 - 43 DX部会
 - 44 SX部会
 - 45 GX部会
 - 46 沖縄のカーボンニュートラルとネイチャーポジティブ
 - 47 環境マネジメント・TCFD
 - 49 TNFD・自然資本
 - 51 資源循環(CE)
- 52 地域貢献
- 55 ガバナンス
- 63 データ

